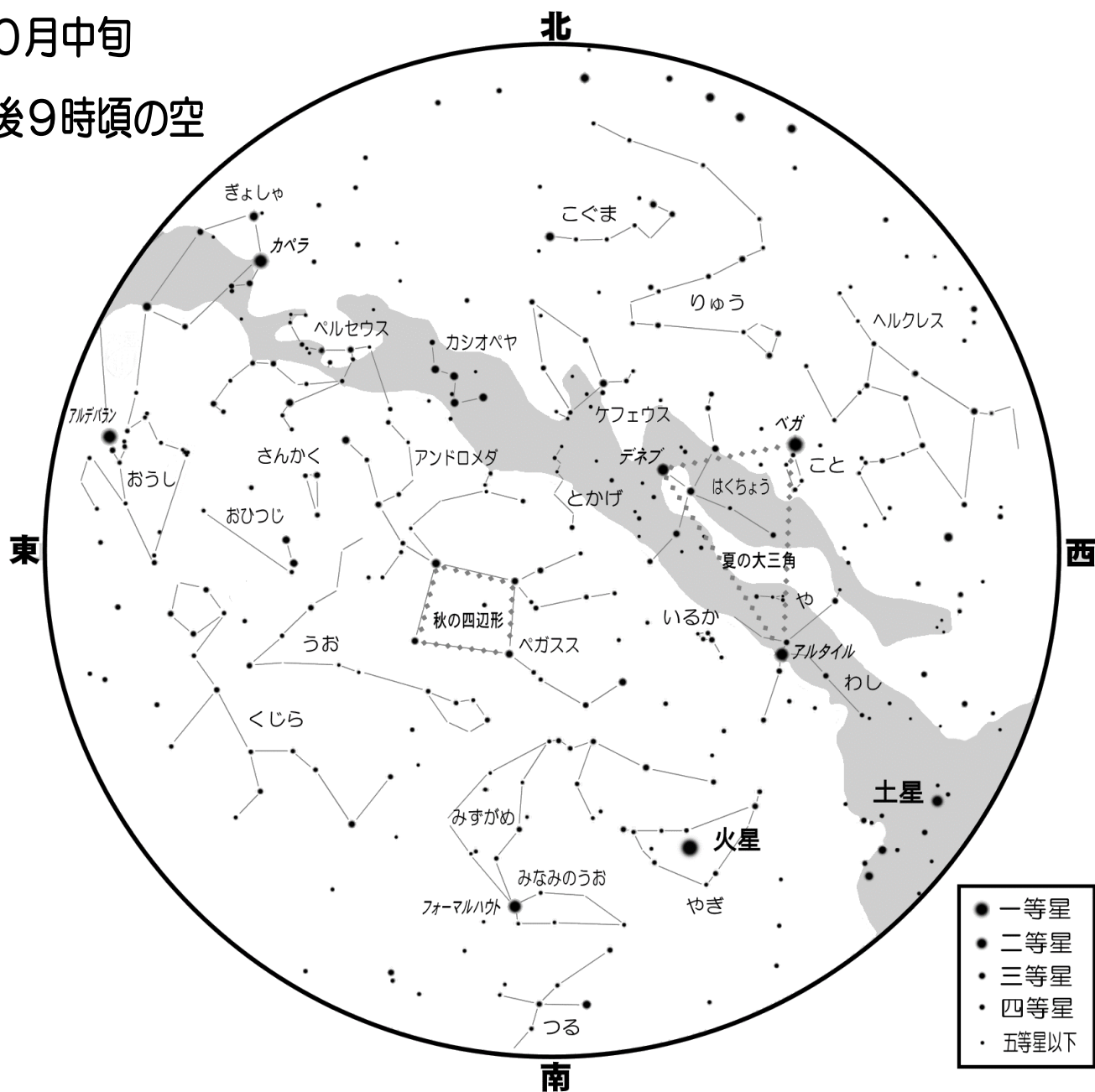


# 阿南市科学センター 10月の星空案内

10月中旬

午後9時頃の空



例年、秋は明るい星が多い夏の夜空や冬の夜空に比べ、少し寂しげな感じがしますが、今年は南西方向に明るい「火星」がありますから思ったほど寂しさを感じることはないかもしれません。

さて、秋の星座は明るい星は少ないものの、夜空がある程度暗いところなら、形が比較的わかりやすい星座が多いのが特徴です。まず、頭の上を見上げると、すぐに3個の2等星と、1個の3等星で作る「秋の四辺形」が見つかります。この四辺形はちょうど空をかける天馬「ペガサス座」の胴体になっており、また、北の空には「W」の形で見えるカシオペア座もあります。また、その周辺にはアンドロメダ座やペルセウス座といった見つけやすい星座もありますので、ぜひ皆さんも一度、秋の夜長を使って星座めぐりをしてみて下さい。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

# 10月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	●下弦の月	●新月	●上弦の月	○満月
見える日	2日	9日	17日	25日

惑星

水星	金星	火星	木星	土星
上旬～中旬は太陽に近く観測は困難。 下旬ころ日没後、西の超低空に見える。 (-0.2等級)	上旬まで日没後の西の超低空に見えるが、以降は太陽に近く観測は困難 (-4.5等級)	午後7時頃、南の空に見える (1.8等級)	日没後、西の低空に見える (-1.8 → -1.7等級)	午後7時頃、南西の空に見える (0.3 → 0.4等級)

## 10月の見もの天体

### ○ みずがめ座の球状星団M2

秋の時期に見える星雲・星団と言えば、有名なのがアンドロメダ座にあるアンドロメダ座大星雲M31ですが、この大星雲以外にも、見やすい天体がいくつかあります。そのひとつがみずがめ座にある球状星団M2です。この天体は北半球で見える球状星団としてはヘルクレス座のM13に次いで2番目に大きなもので、空の状態がよければ口径が6cm程度の小口径の天体望遠鏡でも簡単に見つけることができます。ただ、大きさはそれなりに大きいものの、全体的に明るさが6.5等級と少し暗いことと、さらに南に低いこともあって、南側に薄雲があったり、水銀灯などの人工的な光源があったりすると、思いのほか見つけにくいかもしれません。

空の状態の良い日に科学センターの大型望遠鏡で観察すると、無数の星の粒が一か所に集中している様子がよくわかり、たいへん見事な姿でご覧いただけます。



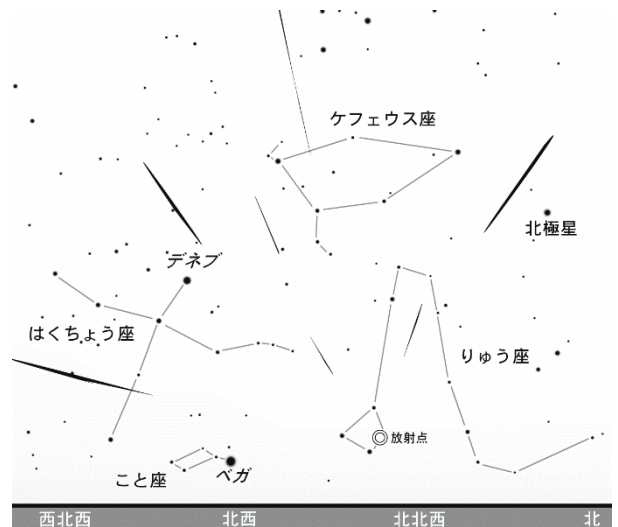
## 今月の天文現象

### 10月9日(火) 10月りゅう座流星群(旧 ジャコビニ流星群)

秋の時期に見られる流星群としては、11月の「しし座流星群」と、10月の「10月りゅう座流星群(旧 ジャコビニ流星群)」が有名です。ただし、しし座流星群は33年、10月りゅう座流星群が13年の周期で多くの流れ星が見られるものの、どちらの流星群も、それ以外の年は1時間あたり、せいぜい数個の流れ星が見られる程度で、あまり注目されることはありません。

それでも、今年の「10月りゅう座流星群」は、新月の日がピークにあたり、観測条件としては最高の年になります。数はそんなに流れることはないものの、この流星群に属する流れ星は移動速度が遅いのが特徴ですから、観察はしやすいと思います。観察は10月8日の深夜から9日の明け方ごろ北西～北の空を中心として、広く空を見上げると流れ星が捉えやすくなります。ただし、流れる数は少ないので、根気よく最低1時間くらいは観察をしたいものです。

なお、この流星群は、2009年までは、ジャコビニ流星群と呼ばれていましたが、2010年より「10月りゅう座流星群」と日本名が変更となりました。



10月9日午前1時ごろ北西の空

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600